



## システム管理コマンド

---

- arp (3 ページ)
- boot (4 ページ)
- cat (6 ページ)
- copy (7 ページ)
- copy startup-config tftp: (8 ページ)
- copy tftp: startup-config (9 ページ)
- debug voice diagnostics mac-address (10 ページ)
- delete (11 ページ)
- dir (12 ページ)
- emergency-install (14 ページ)
- exit (16 ページ)
- flash\_init (17 ページ)
- help (18 ページ)
- install (19 ページ)
- license right-to-use (24 ページ)
- location (26 ページ)
- location plm calibrating (30 ページ)
- mac address-table move update (31 ページ)
- mgmt\_init (33 ページ)
- mkdir (34 ページ)
- more (35 ページ)
- no debug all (36 ページ)
- rename (37 ページ)
- request platform software console attach switch (38 ページ)
- reset (40 ページ)
- rmdir (41 ページ)
- sdm prefer (42 ページ)
- set (43 ページ)
- show avc client (46 ページ)

- `show cable-diagnostics tdr` (47 ページ)
- `show debug` (49 ページ)
- `show env` (50 ページ)
- `show env xps` (52 ページ)
- `show flow monitor` (56 ページ)
- `show install` (61 ページ)
- `show license right-to-use` (64 ページ)
- `show location` (66 ページ)
- `show mac address-table move update` (68 ページ)
- `show platform integrity` (69 ページ)
- `show platform sudi certificate` (70 ページ)
- `show sdm prefer` (72 ページ)
- `system env temperature threshold yellow` (74 ページ)
- `test cable-diagnostics tdr` (76 ページ)
- `traceroute mac` (77 ページ)
- `traceroute mac ip` (80 ページ)
- `type` (83 ページ)
- `unset` (84 ページ)
- `version` (86 ページ)

# arp

Address Resolution Protocol (ARP) テーブルの内容を表示するには、ブート ロード モードで **arp** コマンドを使用します。

**arp** [*ip\_address*]

構文の説明	<i>ip_address</i> (任意) ARP テーブルまたは特定の IP アドレスのマッピングを表示します。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	ブートローダ				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** ARP テーブルには、IP アドレスと MAC アドレスのマッピングが示されます。

## 例

次に、ARP テーブルを表示する例を示します。

```
Device: arp 172.20.136.8
arp'ing 172.20.136.8...
172.20.136.8 is at 00:1b:78:d1:25:ae, via port 0
```

# boot

実行可能イメージをロードおよびブートして、コマンドラインインターフェイス (CLI) を表示するには、ブートローダモードで **boot** コマンドを使用します。

**boot** [-post | -n | -p | *flag*] *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

<b>-post</b>	(任意) 拡張および総合POSTによってロードされたイメージを実行します。このキーワードを使用すると、POSTの完了に要する時間が長くなります。
<b>-n</b>	(任意) 起動後すぐに、Cisco IOS デバッガが休止します。
<b>-p</b>	(任意) イメージのロード後すぐに、JTAG デバッガが休止します。
<i>filesystem:</i>	ファイルシステムのエイリアス。システムボードフラッシュデバイスには <b>flash:</b> を使用します。USB メモリスティックには <b>usbflash0:</b> を使用します。
<i>/file-url</i>	ブート可能なイメージのパス (ディレクトリ) および名前。各イメージ名はセミコロンで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

引数を何も指定しないで **boot** コマンドを入力した場合、デバイスは、BOOT 環境変数が設定されていればその中の情報を使用して、システムを自動的にブートしようとします。

*file-url* 変数にイメージ名を指定した場合、**boot** コマンドは指定されたイメージをブートしようとします。

ブートローダ **boot** コマンドのオプションを設定した場合は、このコマンドがただちに実行され、現在のブートローダセッションだけに適用されます。

これらの設定が保存されて次のブート処理に使用されることはありません。

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

## 例

次の例では、*new-image.bin* イメージを使用してデバイスをブートする方法を示します。

```
Device: set BOOT flash:/new-images/new-image.bin  
Device: boot
```

このコマンドを入力すると、セットアッププログラムを開始するように求められます。

# cat

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **cat** コマンドを使用します。

**cat** *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムを指定します。

*/file-url* 表示するファイルのパス（ディレクトリ）と名前を指定します。ファイル名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定した場合は、各ファイルの内容が順に表示されます。

## 例

次の例では、イメージファイルの内容を表示する方法を示します。

```
Device: cat flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

# copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、ブートローダモードで **copy** コマンドを使用します。

**copy** *filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/source-file-url* コピー元のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

*/destination-file-url* コピー先のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 127 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

ファイルを別のディレクトリにコピーする場合は、そのディレクトリが存在していなければなりません。

## 例

次の例では、ルートにあるファイルをコピーする方法を示します。

```
Device: copy usbflash0:test1.text usbflash0:test4.text
File "usbflash0:test1.text" successfully copied to "usbflash0:test4.text"
```

ファイルがコピーされたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダコマンドを入力します。

## copy startup-config tftp:

スイッチから TFTP サーバに設定をコピーするには、特権 EXEC モードで **copy startup-config tftp:** コマンドを使用します。

**copy startup-config tftp:** *remote host {ip-address}/{name}*

### 構文の説明

*remote host {ip-address}/{name}* リモートホストのホスト名または IP アドレス。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

スイッチから現在の設定をコピーするには、**copy startup-config tftp:** コマンドを実行し、続く指示に従います。設定が TFTP サーバにコピーされます。

次に、別のスイッチへログインし、**copy tftp: startup-config** コマンドを実行して、続く指示に従います。これで、設定は別のスイッチにコピーされます。

### 例

次に、TFTP サーバに設定をコピーする例を示します。

```
Device: copy startup-config tftp:
Address or name of remote host []?
```



## copy tftp: startup-config

TFTP サーバから新しいスイッチに設定をコピーするには、新しいスイッチ上で、特権 EXEC モードで **copy tftp: startup-config** コマンドを使用します。

**copy tftp: startup-config** *remote host {ip-address}/{name}*

### 構文の説明

*remote host {ip-address}/{name}* リモートホストのホスト名またはIPアドレス。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

設定をコピーした後、その設定を保存するには、**write memory** コマンドを使用し、その後スイッチをリロードするか、または **copy startup-config running-config** コマンドを実行します。

### 例

次に、TFTP サーバからスイッチに設定をコピーする例を示します。

```
Device: copy tftp: startup-config
Address or name of remote host []?
```

## debug voice diagnostics mac-address

音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にするには、特権 EXEC モードで **debugvoicediagnosticsmac-address** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**debug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose**  
**nodebug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose**

構文の説明	<b>voice diagnostics</b>	音声クライアントの音声のデバッグを設定します。
	<b>mac-address mac-address1 mac-address mac-address2</b>	音声クライアントのMACアドレスを指定します。
	<b>verbose</b>	音声診断の冗長モードを有効にします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

以下は、**debug voice diagnostics mac-address** コマンドの出力例で、MAC アドレスが 00:1f:ca:cf:b6:60 である音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にする手順を示しています。

```
Device# debug voice diagnostics mac-address 00:1f:ca:cf:b6:60
```

# delete

指定されたファイル システムから 1 つ以上のファイルを削除するには、ブート ローダ モードで **delete** コマンドを使用します。

**delete** *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/file-url...* 削除するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

各ファイルを削除する前に確認を求めるプロンプトが デバイス によって表示されます。

## 例

次の例では、2 つのファイルを削除します。

```
Device: delete usbflash0:test2.text usbflash0:test5.text
Are you sure you want to delete "usbflash0:test2.text" (y/n)?y
File "usbflash0:test2.text" deleted
Are you sure you want to delete "usbflash0:test5.text" (y/n)?y
File "usbflash0:test2.text" deleted
```

ファイルが削除されたことを確認するには、**dir usbflash0:** ブート ローダ コマンドを入力します。

# dir

指定されたファイルシステムのファイルおよびディレクトリのリストを表示するには、ブートローダモードで **dir** コマンドを使用します。

**dir filesystem:/file-url**

## 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムのエイリアス。システム ボードフラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。USB メモリ スティックには **usbflash0:** を使用します。

*/file-url* (任意) 表示するコンテンツが格納されているパス (ディレクトリ) およびディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブート ローダ  
特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

## 例

次の例では、フラッシュ メモリ内のファイルを表示する方法を示します。

```
Device: dir flash:
Directory of flash:/
 2  -rwx      561  Mar 01 2013 00:48:15  express_setup.debug
 3  -rwx    2160256  Mar 01 2013 04:18:48  c2960x-dmon-mz-150-2r.EX
 4  -rwx      1048  Mar 01 2013 00:01:39  multiple-fs
 6  drwx       512  Mar 01 2013 23:11:42  c2960x-universalk9-mz.150-2.EX
645 drwx       512  Mar 01 2013 00:01:11  dc_profile_dir
647 -rwx      4316  Mar 01 2013 01:14:05  config.text
648 -rwx         5  Mar 01 2013 00:01:39  private-config.text

96453632 bytes available (25732096 bytes used)
```

表 1: **dir** のフィールドの説明

フィールド	説明
2	ファイルのインデックス番号

フィールド	説明
-rwx	ファイルのアクセス権 (次のいずれか、またはすべて) <ul style="list-style-type: none"><li>• d : ディレクトリ</li><li>• r : 読み取り可能</li><li>• w : 書き込み可能</li><li>• x : 実行可能</li></ul>
1644045	ファイルのサイズ
<date>	最終変更日
env_vars	ファイル名。



```
Downloading bundle tftp:<url>...
Validating bundle tftp:<url>...
Installing bundle tftp:<url>...
Verifying bundle tftp:<url>...
Package cat3k_caa-base.SPA.03.02.00SE.pkg is Digitally Signed
Package cat3k_caa-drivers.SPA.03.02.00.SE.pkg is Digitally Signed
Package cat3k_caa-infra.SPA.03.02.00SE.pkg is Digitally Signed
Package cat3k_caa-iosd-universalk9.SPA.150-1.EX.pkg is Digitally Signed
Package cat3k_caa-platform.SPA.03.02.00.SE.pkg is Digitally Signed
Package cat3k_caa-wcm.SPA.10.0.100.0.pkg is Digitally Signed
Preparing flash...
Syncing device...
Emergency Install successful... Rebooting
Restarting system.\ufffd
```

```
Booting...(use DDR clock 667 MHz)Initializing and Testing RAM
+++@@@###...+@@+@@+@@+@@+@@+@@+@@+@@+@@+@@done.
Memory Test Pass!
```

```
Base ethernet MAC Address: 20:37:06:ce:25:80
Initializing Flash...
```

```
flashfs[7]: 0 files, 1 directories
flashfs[7]: 0 orphaned files, 0 orphaned directories
flashfs[7]: Total bytes: 6784000
flashfs[7]: Bytes used: 1024
flashfs[7]: Bytes available: 6782976
flashfs[7]: flashfs fsck took 1 seconds....done Initializing Flash.
```

```
The system is not configured to boot automatically. The
following command will finish loading the operating system
software:
```

```
boot
```

# exit

以前のモードに戻るか、CLI EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

## exit

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

グローバル コンフィギュレーション

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、コンフィギュレーション モードを終了する例を示します。

```
Device(config)# exit
Device#
```



# flash\_init

flash: ファイル システムを再初期化するには、ブートローダ モードで **flash\_init** コマンドを使用します。

## flash\_init

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

flash: ファイル システムは、通常のシステム動作中に自動的に初期化されます。

### コマンド モード

ブートローダ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

flash: ファイル システムは、通常のブート プロセス中に自動的に初期化されます。

このコマンドは、flash: ファイル システムを手動で初期化します。たとえば、パスワードを忘れた場合には、回復手順中にこのコマンドを使用します。

# help

利用可能なコマンドを表示するには、ブート ロード モードで **help** コマンドを使用します。

## help

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

ブートローダ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、利用可能なブート ロード コマンドのリストを表示する例を示します。

```
Device:help
? -- Present list of available commands
arp -- Show arp table or arp-resolve an address
boot -- Load and boot an executable image
cat -- Concatenate (type) file(s)
copy -- Copy a file
delete -- Delete file(s)
dir -- List files in directories
emergency-install -- Initiate Disaster Recovery
...
...
...
unset -- Unset one or more environment variables
version -- Display boot loader version
```

# install

ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) パッケージをインストールするには、**install** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。

```
install {abort | activate | file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} [{auto-abort-timer timer timer
prompt-level {all | none}}]} | add file {bootflash: | flash: | ftp: | harddisk: | http: | https: | pram: | rcp:
| scp: | tftp: | webui:} [{activate [{auto-abort-timer timer prompt-level {all | none} commit}]}] | commit
| auto-abort-timer stop | deactivate file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} | label id {description
description} | label-name name} | remove {file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} | inactive} | rollback
to {base | committed | id {install-ID} | label {label-name}}}
```

## 構文の説明

<b>abort</b>	現在のインストール操作を中止します。
<b>activate</b>	<p><b>install add</b> コマンドを通じて SMU が追加されているかどうかを検証します。</p> <p>このキーワードは、互換性チェックを実行し、パッケージステータスを更新します。パッケージを再起動できる場合はポストインストールスクリプトをトリガーして必要なプロセスを再起動するか、または再起動できないパッケージの場合はリロードをトリガーします。</p>
<b>file</b>	アクティブにするパッケージを指定します。
<b>{bootflash:   flash:   harddisk:   webui:}</b>	インストールしたパッケージのロケーションを指定します。
<b>auto-abort-timer timer</b>	(任意) 自動アボートタイマーをインストールします。
<b>prompt-level {all   none}</b>	<p>(任意) インストール アクティビティについてのプロンプトをユーザに表示します。</p> <p>たとえば、<b>activate</b> キーワードはリロードが必要なパッケージに対してリロードを自動的にトリガーします。パッケージをアクティブにする前に、続行するかどうかについてユーザに確認するプロンプトが表示されます。</p> <p><b>all</b> キーワードを使用するとプロンプトをイネーブルにすることができます。<b>none</b> キーワードはプロンプトをディセーブルにします。</p>

<b>add</b>	<p>リモートのロケーションから (FTP、TFTP 経由で) デバイスにファイルをコピーし、プラットフォームとイメージバージョンにソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) を実行します。</p> <p>このキーワードは、指定したパッケージがプラットフォームで必ずサポートされるように基本の互換性チェックを実行します。また、パッケージファイル内にエントリを追加することで、ステータスを監視し、維持できるようにします。</p>
<pre>{ bootflash:   flash:   ftp:   harddisk:   http:   https:     pram:   rcp:   scp:   tftp:   webui: }</pre>	追加するパッケージを指定します。
<b>commit</b>	<p>リロード後も SMU の変更が持続されるようにします。</p> <p>パッケージをアクティブにした後、システムがアップ状態にある間、または最初のリロード後にコミットを実行できます。パッケージがアクティブになってもコミットされていない場合は、最初のリロード後はアクティブの状態を保ちますが、2回目のリロード後はアクティブ状態を保ちません。</p>
<b>auto-abort-timer stop</b>	自動アボート タイマーを停止します。
<b>deactivate</b>	<p>インストールしたパッケージを非アクティブにします。</p> <p>また、パッケージを非アクティブにすると、パッケージ ステータスが更新され、プロセスが再起動またはリロードされます。</p>
<b>label <i>id</i></b>	ラベルを付けるインストール ポイントの ID を指定します。
<b>description</b>	指定したインストール ポイントに説明を追加します。
<b>label-name <i>name</i></b>	指定したインストール ポイントに説明を追加します。

<b>remove</b>	インストールしたパッケージを削除します。 パッケージファイルがファイル システムから削除されます。 <b>remove</b> キーワードは、現在非アクティブ状態のパッケージでのみ使用できます。
<b>inactive</b>	非アクティブ状態のパッケージをデバイスから削除します。
<b>rollback</b>	データモデルインターフェイス (DMI) パッケージ (DMP) SMU をベースバージョン、最後にコミットされたバージョン、または既知のコミット ID にロールバックします。
<b>tobase</b>	ベース イメージに戻します。
<b>committed</b>	最後のコミット操作が実行されたときのインストール状態に戻します。
<b>id install-ID</b>	特定のインストール ポイント ID に戻します。有効な値は、1 ~ 4294967295 です。

**コマンド デフォルト** パッケージはインストールされません。

**コマンド モード** 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** SMU は、システムにインストールしてパッチ修正やセキュリティ解決をリリースされたイメージに提供ができるパッケージです。このパッケージには、パッケージの内容を記述するいくつかのメタデータとともに、リリースにパッチを適用するための最小限の一連のファイルが含まれています。

パッケージは、SMU をアクティブにする前に追加する必要があります。

パッケージは、ブートフラッシュから削除する前に非アクティブにする必要があります。削除したパッケージは、もう一度追加する必要があります。

## 例

次に、インストール パッケージをデバイスに追加する例を示します。

```
Device# install add file tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin
```

```
install_add: START Sun Feb 26 05:57:04 UTC 2017
Downloading file tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
```

```
CSCvb12345.SSA.dmp.bin
Finished downloading file
tftp://172.16.0.1//tftpboot/folder1/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin to
bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin
SUCCESS: install_add /bootflash/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin
```

```
Sun Feb 26 05:57:22 UTC 2017
```

次に、インストールパッケージをアクティブにする例を示します。

```
Device# install activate file bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin
```

```
install_activate: START Sun Feb 26 05:58:41 UTC 2017
DMP package.
Netconf processes stopped
SUCCESS: install_activate
/bootflash/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxxxxxx.SSA.dmp.bin
Sun Feb 26 05:58:58 UTC 2017
*Feb 26 05:58:47.655: %DMI-4-CONTROL_SOCKET_CLOSED: SIP0: nescd:
Confd control socket closed Lost connection to Confd (45): EOF on socket to Confd.
*Feb 26 05:58:47.661: %DMI-4-SUB_READ_FAIL: SIP0: vtyserverutild:
Confd subscription socket read failed Lost connection to Confd (45):
EOF on socket to Confd.
*Feb 26 05:58:47.667: %DMI-4-CONTROL_SOCKET_CLOSED: SIP0: syncfd:
Confd control socket closed Lost connection to Confd (45): EOF on socket to Confd.
*Feb 26 05:59:43.269: %DMI-5-SYNC_START: SIP0: syncfd:
External change to running configuration detected.
The running configuration will be synchronized to the NETCONF running data store.
*Feb 26 05:59:44.624: %DMI-5-SYNC_COMPLETE: SIP0: syncfd:
The running configuration has been synchronized to the NETCONF running data store.
```

次に、インストールしたパッケージをコミットする例を示します。

```
Device# install commit
```

```
install_commit: START Sun Feb 26 06:46:48 UTC 2017
SUCCESS: install_commit Sun Feb 26 06:46:52 UTC 2017
```

次に、ベース SMU パッケージにロールバックする例を示します。

```
Device# install rollback to base
```

```
install_rollback: START Sun Feb 26 06:50:29 UTC 2017
7 install_rollback: Restarting impacted processes to take effect
7 install_rollback: restarting confd

*Feb 26 06:50:34.957: %DMI-4-CONTROL_SOCKET_CLOSED: SIP0: syncfd:
Confd control socket closed Lost connection to Confd (45): EOF on socket to Confd.
*Feb 26 06:50:34.962: %DMI-4-CONTROL_SOCKET_CLOSED: SIP0: nescd:
Confd control socket closed Lost connection to Confd (45): EOF on socket to Confd.
*Feb 26 06:50:34.963: %DMI-4-SUB_READ_FAIL: SIP0: vtyserverutild:
Confd subscription socket read failed Lost connection to Confd (45):
EOF on socket to Confd.
Netconf processes stopped
7 install_rollback: DMP activate complete
SUCCESS: install_rollback Sun Feb 26 06:50:41 UTC 2017
*Feb 26 06:51:28.901: %DMI-5-SYNC_START: SIP0: syncfd:
External change to running configuration detected.
The running configuration will be synchronized to the NETCONF running data store.
*Feb 26 06:51:30.339: %DMI-5-SYNC_COMPLETE: SIP0: syncfd:
```

The running configuration has been synchronized to the NETCONF running data store.

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show install</b>	インストールパッケージに関する情報を表示します。

## license right-to-use

使用権ライセンスを デバイス で設定するには、**licenserright-to-use** コマンドを特 EXEC モードで使用します。

**license right-to-use** [activate | deactivate] [network-essentials | network-advantage] [ all | evaluation | subscription {all | slot <1-8>} ] [acceptEULA]

**license right-to-use** [activate | deactivate] addon [dna-essentials | dna-advantage] [ all | evaluation | subscription {all | slot <1-8>} ] [acceptEULA]

### 構文の説明

<b>activate</b>	永久ライセンス、評価ライセンス、またはサブスクリプションライセンスをアクティブにします。
<b>deactivate</b>	永久ライセンス、評価ライセンス、またはサブスクリプションライセンスを非アクティブにします。
<b>network-essentials</b>	ネットワーク必須ライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>network-advantage</b>	ネットワーク高度ライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>addon</b>	アドオンライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>dna-essentials</b>	DNA 必須アドオンライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>dna-advantage</b>	DNA 高度アドオンライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>evaluation</b>	評価ライセンスをスイッチ上でアクティブにします。
<b>subscription</b>	DNA 必須または DNA 高度などのサブスクリプションライセンスをスイッチ上でアクティブにします。



<b>acceptEULA</b>	エンドユーザライセンス契約を承認します。
<b>slot switch-number</b>	スイッチ番号を指定します。
<b>all</b>	スタック内のすべてのスイッチを指定します。

コマンドデフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード 特権 EXEC

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、ネットワーク必須評価ライセンスをアクティブにする例を示します。

```
Device# license right-to-use activate network-essentials evaluation
Device# end
```

次に、ネットワーク必須評価ライセンスを非アクティブにする例を示します。

```
Device# license right-to-use deactivate network-essentials evaluation
Device# end
```

次に、ネットワーク必須評価ライセンスを acceptEULA を使用してアクティブにする例を示します。

```
Device# license right-to-use activate network-essentials slot 1 acceptEULA
Device# end
```

# location

エンドポイントのロケーション情報を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **location** コマンドを使用します。ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
location {admin-tag string|civic-location identifier {hostid}|civic-location identifier
{hostid}|elin-location {string |identifier id}|geo-location identifier {hostid}|prefer {cdp weight
priority-value|lldp-med weight priority-value|static config weight priority-value}
no location {admin-tag string|civic-location identifier {hostid}|civic-location identifier
{hostid}|elin-location {string |identifier id}|geo-location identifier {hostid}|prefer {cdp weight
priority-value|lldp-med weight priority-value|static config weight priority-value}
```

## 構文の説明

<b>admin-tag</b> <i>string</i>	管理タグまたはサイト情報を設定します。英数字形式のサイト情報またはロケーション情報。
<b>civic-location</b>	都市ロケーション情報を設定します。
<b>identifier</b>	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前を指定します。
<b>host</b>	ホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を定義します。
<i>id</i>	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前。  (注) LLDP-MED スイッチ TLV での都市ロケーションの ID は 250 バイト以下に制限されます。スイッチ設定中に使用できるバッファスペースに関するエラーメッセージを回避するには、各都市ロケーション ID に指定されたすべての都市ロケーション情報の全体の長さが 250 バイトを超えないようにします。
<b>elin-location</b>	緊急ロケーション情報 (ELIN) を設定します。
<b>geo-location</b>	地理空間的なロケーション情報を設定します。
<b>prefer</b>	ロケーション情報のソースのプライオリティを設定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**

**location civic-location identifier** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、都市ロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。**location geo-location identifier** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、ジオロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。

都市ロケーション ID は 250 バイトを超えてはなりません。

ホスト ID はホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を設定します。ID がホストではない場合、ID はインターフェイスで参照できる地理空間的なテンプレートまたは都市ロケーションだけを定義します。

**host** キーワードは、デバイスの場所を定義します。**identifier** と **host** キーワードを使用して設定可能な都市ロケーション オプションは同じです。都市ロケーション コンフィギュレーション モードで次の都市ロケーション オプションを指定できます。

- **additional-code** : 追加都市ロケーション コードを設定します。
- **additional-location-information** : 追加都市ロケーション情報を設定します。
- **branch-road-name** : ブランチのロード名を設定します。
- **building** : 建物の情報を設定します。
- **city** : 都市名を設定します。
- **country** : 2 文字の ISO 3166 の国コードを設定します。
- **county** : 郡名を設定します。
- **default** : コマンドをデフォルト値に設定します。
- **division** : 市の地区の名前を設定します。
- **exit** : 都市ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **floor** : 階数を設定します。
- **landmark** : 目印となる建物の情報を設定します。
- **leading-street-dir** : 町名番地に付与される方角を設定します。
- **name** : 居住者名を設定します。
- **neighborhood** : ネイバーフッド情報を設定します。
- **no** : 指定された都市ロケーション データを拒否し、デフォルト値を設定します。
- **number** : 町名番地を設定します。
- **post-office-box** : 私書箱を設定します。
- **postal-code** : 郵便番号を設定します。
- **postal-community-name** : 郵便コミュニティ名を設定します。
- **primary-road-name** : 主要道路の名前を設定します。
- **road-section** : 道路の区間を設定します。
- **room** : 部屋の情報を設定します。
- **seat** : 座席の情報を設定します。
- **state** : 州の名前を設定します。

- **street-group** : 町名番地のグループを設定します。
- **street-name-postmodifier** : 町名番地の名前のポストモディファイアを設定します。
- **street-name-premodifier** : 町名番地の名前のプレモディファイアを設定します。
- **street-number-suffix** : 町名番地の番号のサフィックスを設定します。
- **street-suffix** : 町名番地のサフィックスを設定します。
- **sub-branch-road-name** : 支線からさらに分岐した道路名を設定します。
- **trailing-street-suffix** : 後に続く町名番地のサフィックスを設定します。
- **type-of-place** : 場所のタイプを設定します。
- **unit** : 単位を設定します。

地理的ロケーション コンフィギュレーション モードで次の地理空間的なロケーション情報を指定できます。

- **altitude** : 高さの情報を階数、メートル、またはフィート単位で設定します。
- **latitude** : 度、分、秒の緯度情報を設定します。範囲は -90 ~ 90 度です。正の値は、赤道より北側の位置を示します。
- **longitude** : 度、分、秒の経度の情報を設定します。範囲は -180 ~ 180 度です。正の値は、グリニッジ子午線の東側の位置を示します。
- **resolution** : 緯度と経度の分解能を設定します。分解能値を指定しない場合、10m のデフォルト値が緯度と経度の分解能パラメータに適用されます。緯度と経度の場合、分解能の単位はメートルで測定されます。分解能の値は小数単位でも指定できます。
- **default** : デフォルトの属性によって、地理的位置を設定します。
- **exit** : 地理的ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **no** : 指定された地理的パラメータを拒否し、デフォルト値を設定します。

ロケーション TLV を無効にするには、**no lldp med-tlv-select location information** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトでは、ロケーション TLV はイネーブルに設定されています。

次の例では、スイッチに都市ロケーション情報を設定する方法を示します。

```
Device(config)# location civic-location identifier 1
Device(config-civic)# number 3550
Device(config-civic)# primary-road-name "Cisco Way"
Device(config-civic)# city "San Jose"
Device(config-civic)# state CA
Device(config-civic)# building 19
Device(config-civic)# room C6
Device(config-civic)# county "Santa Clara"
Device(config-civic)# country US
Device(config-civic)# end
```

設定を確認するには、**show location civic-location** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、スイッチ上で緊急ロケーション情報を設定する方法を示します。

```
Device(config)# location elin-location 14085553881 identifier 1
```

設定を確認するには、**show location elin** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、スイッチに、地理空間ロケーション情報を設定する例を示します。

```
Device(config)# location geo-location identifier host  
Device(config-geo)# latitude 12.34  
Device(config-geo)# longitude 37.23  
Device(config-geo)# altitude 5 floor  
Device(config-geo)# resolution 12.34
```

設定された地理空間的な場所の詳細を表示するには、**show location geo-location identifier** コマンドを使用します。

# location plm calibrating

調整クライアントのパス損失測定（CCXS60）要求を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **locationplmcalibrating** コマンドを使用します。

**location plm calibrating {multiband | uniband}**

## 構文の説明

**multiband** 関連付けられた 802.11a または 802.11b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を指定します。

**uniband** 関連付けられた 802.11a/b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

単一の無線クライアントには、（無線がデュアルバンドで、2.4 GHz と 5 GHz の両方の帯域でも動作できるとしても）**uniband** が役立ちます。複数の無線クライアントには、**multiband** が役立ちます。

次に、関連付けられた 802.11a/b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# location plm calibrating uniband
Device(config)# end
```

## mac address-table move update

MACアドレステーブル移行更新機能を有効にするには、スイッチスタックまたはスタンドアロンスイッチのグローバルコンフィギュレーションモードで **mac address-table move update** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac address-table move update {receive | transmit}
no mac address-table move update {receive | transmit}
```

### 構文の説明

**receive** スイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを処理するように指定します。

**transmit** プライマリリンクがダウンし、スタンバイリンクが起動した場合、スイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージをネットワークの他のスイッチに送信するように指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトでは、MAC アドレステーブル移行更新機能はディセーブルです。

### コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

### コマンド履歴

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

MAC アドレステーブル移行更新機能により、プライマリ（フォワーディング）リンクがダウンし、スタンバイリンクがトラフィックのフォワーディングを開始した場合、スイッチは高速双方向コンバージェンスを提供できます。

プライマリリンクがダウンし、スタンバイリンクが起動した場合、アクセススイッチが MAC アドレステーブル移行更新メッセージを送信するように設定できます。アップリンクスイッチが、MAC アドレステーブル移行更新メッセージを受信および処理するように設定できます。

### 例

次の例では、アクセススイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを送信するように設定する方法を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# mac address-table move update transmit
Device(config)# end
```

次の例では、アップリンクスイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを取得および処理するように設定する方法を示します。

```
Device# configure terminal  
Device(config)# mac address-table move update receive  
Device(config)# end
```

**show mac address-table move update** 特権 EXEC コマンドを入力すると、設定を確認できます。



# mgmt\_init

イーサネット管理ポートを再初期化するには、ブートローダモードで **mgmt\_init** コマンドを使用します。

## mgmt\_init

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

ブートローダ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

イーサネット管理ポートのデバッグ中にのみ、**mgmt\_init** コマンドを使用します。

### 例

次の例では、イーサネット管理ポートを初期化する方法を示します。

```
Device: mgmt_init
```

# mkdir

指定されたファイルシステムに1つ以上のディレクトリを作成するには、ブートローダモードで **mkdir** コマンドを使用します。

**mkdir** *filesystem:/directory-url...*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。USB メモリスティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/directory-url...* 作成するディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

## 例

次の例では、ディレクトリ **Saved\_Configs** を作成する方法を示します。

```
Device: mkdir usbflash0:Saved_Configs
Directory "usbflash0:Saved_Configs" created
```

## more

1つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **more** コマンドを使用します。

**more filesystem:/file-url...**

### 構文の説明

*filesystem*: ファイルシステムのエイリアス。システムボードフラッシュデバイスには **flash:** を使用します。

*/file-url...* 表示するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

### コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンドモード

ブートローダ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。  
ファイルのリストを指定した場合は、各ファイルの内容が順に表示されます。

### 例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
Device: more flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

# no debug all

スイッチのデバッグを無効にするには、特権 EXEC モードで **no debug all** コマンドを使用します。

## no debug all

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

## 例

次に、スイッチでデバッグを無効にする例を示します。

```
Device: no debug all
All possible debugging has been turned off.
```

## rename

ファイルの名前を変更するには、ブートコンフィギュレーションモードで **rename** コマンドを使用します。

```
rename filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url
```

### 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/source-file-url* 元のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

*/destination-file-url* 新しいパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

ブートローダ

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 127 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

### 例

次の例では、ファイル *config.text* の名前を *config1.text* に変更します。

```
Device: rename usbflash0:config.text usbflash0:config1.text
```

ファイルの名前が変更されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

# request platform software console attach switch

メンバースイッチでセッションを開始するには、特権 EXEC モードで **request platform software console attach switch** コマンドを使用します。



(注) スタッキングスイッチ (Catalyst 3650/3850/9300/9500 スイッチ) では、このコマンドはスタンバイ コンソールでセッションを開始する場合にのみ使用できます。メンバー スイッチでセッションを開始することはできません。デフォルトでは、すべてのコンソールはすでにアクティブであるため、アクティブなコンソールでセッションを開始する要求はエラーになります。

**request platform software console attach switch** { *switch-number* | **active** | **standby** } { **0/0** | **R0** }

## 構文の説明

*switch-number* スイッチ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 9 です。

**active** アクティブ スイッチを指定します。

**standby** スタンバイ スイッチを指定します。

**0/0** SPA-Inter-Processor スロットが 0 で、ベイが 0 であることを指定します。

(注) このオプションをスタッキングスイッチとともに使用しないでください。それはエラーになります。

**R0** ルート プロセッサ スロットが 0 であることを指定します。

## コマンド デフォルト

デフォルトでは、スタック内のすべてのスイッチがアクティブです。

## コマンド モード

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

スタンバイ スイッチでセッションを開始するには、最初に設定で有効にする必要があります。

## 例

次に、スタンバイ スイッチとのセッションを行う例を示します。

```
Device# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)# end
Device# request platform software console attach switch standby R0
```

```
#  
# Connecting to the IOS console on the route-processor in slot 0.  
# Enter Control-C to exit.  
#  
Device-stby> enable  
Device-stby#
```

# reset

システムでハードリセットを実行するには、ブートローダモードで **reset** コマンドを使用します。ハードリセットを行うと、デバイスの電源切断後に電源を投入する手順と同様に、プロセッサ、レジスタ、およびメモリの内容が消去されます。

## reset

**構文の説明** このコマンドには引数またはキーワードはありません。

**コマンド デフォルト** デフォルトの動作や値はありません。

**コマンド モード** ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 例

次の例では、システムをリセットする方法を示します。

```
Device: reset
Are you sure you want to reset the system (y/n)? y
System resetting...
```



# rmdir

指定されたファイル システムから 1 つ以上の空のディレクトリを削除するには、ブート ロード モードで **rmdir** コマンドを使用します。

**rmdir** *filesystem:/directory-url...*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイル システムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

*/directory-url...* 削除する空のディレクトリのパス（ディレクトリ）および名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字で、大文字と小文字の区別があります。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、およびコロンは使用できません。

ディレクトリを削除する前に、まずディレクトリ内のファイルをすべて削除する必要があります。

デバイスは、各ディレクトリを削除する前に、確認を求めるプロンプトを出します。

## 例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
Device: rmdir usbflash0:Test
```

ディレクトリが削除されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダ コマンドを入力します。

# sdm prefer

スイッチで使用する SDM テンプレートを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sdm prefer** コマンドを使用します。

**sdm prefer**  
{ **advanced** }

## 構文の説明

**advanced** NetFlow などの高度な機能をサポートします。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

デバイス スタックでは、すべてのスタック メンバが、アクティブなデバイスに保存された同一の SDM テンプレートを使用する必要があります。

新規デバイスがスタックに追加されると、アクティブ デバイスに保存された SDM コンフィギュレーションは、個々のデバイスに設定されているテンプレートを上書きします。

## 例

次に、高度なテンプレートを設定する例を示します。

```
Device(config)# sdm prefer advanced
Device(config)# exit
Device# reload
```

## set

環境変数を設定または表示するには、ブートローダモードで **set** コマンドを使用します。環境変数は、ブートローダまたはデバイスで稼働している他のソフトウェアを制御するために使用できます。

**set** *variable value*

### 構文の説明

*variable*  
*value*

*variable* および *value* の適切な値には、次のいずれかのキーワードを使用します。

**MANUAL\_BOOT** : デバイスの起動を自動で行うか手動で行うかどうかを決定します。

有効な値は 1/Yes と 0/No です。0 または No に設定されている場合、ブートローダはシステムを自動的に起動します。他の値に設定されている場合は、ブートローダモードから手動でデバイスを起動する必要があります。

**BOOT filesystem:/file-url** : 自動起動時にロードおよび実行される実行可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。

BOOT 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。BOOT 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。

**ENABLE\_BREAK** : ユーザがコンソールの **Break** キーを押すと自動起動プロセスを中断できるようになります。

有効な値は 1、Yes、On、0、No、および Off です。1、Yes、または On に設定されている場合は、フラッシュファイルシステムの初期化後にコンソール上で Break キーを押すことで、自動起動プロセスを中断できます。

**HELPER filesystem:/file-url** : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。

**PS1 prompt** : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。

**CONFIG\_FILE flash:/file-url** : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名を指定します。

---

**BAUD rate** : コンソールのボーレートに使用するビット数/秒 (b/s) を指定します。コンフィギュレーションファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。指定できる範囲は0～128000 b/sです。有効値は、50、75、110、150、300、600、1200、1800、2000、2400、3600、4800、7200、9600、14400、19200、28800、38400、56000、57600、115200、および128000です。

最も一般的な値は、300、1200、2400、9600、19200、57600、および115200です。

---

**SWITCH\_NUMBER** *stack-member-number* : スタックメンバのメンバ番号を変更します。

---

**SWITCH\_PRIORITY** *priority-number* : スタックメンバのプライオリティ値を変更します。

---

#### コマンド デフォルト

環境変数のデフォルト値は、次のとおりです。

MANUAL\_BOOT: No (0)

BOOT : ヌルストリング

ENABLE\_BREAK : No (Off または 0) (コンソール上で Break キーを押して自動起動プロセスを中断することはできません)。

HELPER: デフォルト値はありません (ヘルパーファイルは自動的にロードされません)。

PS1 デバイス :

CONFIG\_FILE: config.text

BAUD : 9600 b/s

SWITCH\_NUMBER: 1

SWITCH\_PRIORITY: 1



(注) 値が設定された環境変数は、各ファイルのフラッシュファイルシステムに保管されます。ファイルの各行には、環境変数名と等号に続いて、その変数の値が指定されます。

このファイルに表示されていない変数には値がありません。表示されていればヌルストリングであっても値があります。ヌルストリング (たとえば “”) が設定されている変数は、値が設定された変数です。

多くの環境変数は事前に定義されており、デフォルト値が設定されています。

---

#### コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

環境変数は大文字と小文字の区別があり、指定どおりに入力する必要があります。

値を持つ環境変数は、フラッシュ ファイル システムの外にあるフラッシュ メモリに保管されます。

通常的环境中では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL\_BOOT 環境変数は、**boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

BOOT 環境変数は、**boot system filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ENABLE\_BREAK 環境変数は、**boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

HELPER 環境変数は、**boot helper filesystem: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

CONFIG\_FILE 環境変数は、**boot config-file flash: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH\_NUMBER 環境変数は、**switch current-stack-member-numberrenumber new-stack-member-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH\_PRIORITY 環境変数は、デバイス **stack-member-numberpriority priority-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ブート ロードのプロンプト スtring (PS1) には、等号 (=) を除く、出力可能な文字列を 120 文字まで指定できます。

## 例

次に、SWITCH\_PRIORITY 環境変数を設定する例を示します。

```
Device: set SWITCH_PRIORITY 2
```

設定を確認するには、**set** ブート ロード コマンドを使用します。

## show avc client

上位アプリケーションの数に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show avc client** コマンドを使用します。

**show avc client** *client-mac* **top** *n* **application** [**aggregate** | **upstream** | **downstream**]

### 構文の説明

**client***client-mac* クライアントの MAC アドレスを指定します。

**top***n***application** 特定のクライアントの上位「N」個のアプリケーションの数を指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

次に、**show avc client** コマンドの出力例を示します。

```
Device# sh avc client 0040.96ae.65ec top 10 application aggregate
```

Cumulative Stats:

No.	AppName	Packet-Count	Byte-Count	AvgPkt-Size	usage%
1	skinny	7343	449860	61	94
2	unknown	99	13631	137	3
3	dhcp	18	8752	486	2
4	http	18	3264	181	1
5	tftp	9	534	59	0
6	dns	2	224	112	0

Last Interval (90 seconds) Stats:

No.	AppName	Packet-Count	Byte-Count	AvgPkt-Size	usage%
1	skinny	9	540	60	100

## show cable-diagnostics tdr

タイムドメイン反射率計（TDR）の結果を表示するには、特権 EXEC モードで **show cable-diagnostics tdr** コマンドを使用します。

**show cable-diagnostics tdr interface interface-id**

### 構文の説明

*interface-id* TDRが実行されているインターフェイスを指定します。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

TDR は、銅線のイーサネット 10/100/100 ポートだけでサポートされます。10 ギガビットイーサネットポート、および Small Form-Factor Pluggable (SFP) モジュールポートではサポートされません。

### 例

次の例では、デバイスでの **show cable-diagnostics tdr interface interface-id** コマンドの出力を示します。

```
Device# show cable-diagnostics tdr interface gigabitethernet1/0/23
TDR test last run on: March 01 00:04:08
Interface Speed Local pair Pair length Remote pair Pair status
-----
Gi1/0/23 1000M Pair A 1 +/- 1 meters Pair A Normal
          Pair B 1 +/- 1 meters Pair B Normal
          Pair C 1 +/- 1 meters Pair C Normal
          Pair D 1 +/- 1 meters Pair D Normal
```

表 2: **show cable-diagnostics tdr** コマンドで出力されるフィールドの説明

フィールド	説明
Interface	TDR が実行されているインターフェイス。
Speed	接続速度。
Local pair	ローカル インターフェイスで TDR がテストを実行するワイヤ ペア名。

フィールド	説明
Pair length	<p>デバイスに関するケーブルの問題の場所。次のいずれかの場合に限り、TDRは場所を特定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ケーブルが正しく接続され、リンクがアップ状態で、インターフェイス速度が 1000 Mb/s である場合</li> <li>• ケーブルが断線している場合</li> <li>• ケーブルがショートしている場合</li> </ul>
Remote pair	ローカル ペアが接続されたワイヤ ペア名。ケーブルが正しく接続されリンクがアップ状態である場合だけ、TDR はリモート ペアについて確認します。
Pair status	<p>TDR が実行されているワイヤ ペアのステータス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal : ワイヤ ペアが正しく接続されています。</li> <li>• Not completed : テストは実行中で、完了していません。</li> <li>• Not supported : インターフェイスは TDR をサポートしません。</li> <li>• Open : ワイヤ ペアが断線しています。</li> <li>• Shorted : ワイヤ ペアがショートしています。</li> <li>• ImpedanceMis : インピーダンスが一致しません。</li> <li>• Short/Impedance Mismatched : インピーダンスが一致しないかケーブルがショートしています。</li> <li>• InProgress : 診断テストが進行中です。</li> </ul>

次の例では、TDR が実行されているときの **show interface interface-id** コマンドの出力を示します。

```
Device# show interface gigabitethernet1/0/2
gigabitethernet1/0/2 is up, line protocol is up (connected: TDR in Progress)
```

次の例では、TDR が実行されているときの **show cable-diagnostics tdr interface interface-id** コマンドの出力を示します。

```
Device# show cable-diagnostics tdr interface gigabitethernet1/0/2
% TDR test was never issued on gigabitethernet1/0/2
```

インターフェイスでTDRがサポートされない場合、次のメッセージが表示されます。

```
% TDR test is not supported on デバイス 1
```



# show debug

スイッチで使用できるすべての debug コマンドを表示するには、特権 EXEC モードで **show debug** コマンドを使用します。

**show debug**

**show debug condition** *Condition identifier* | *All conditions*

## 構文の説明

*Condition identifier* 使用される条件識別子の値を設定します。範囲は、1～1000です。

*All conditions* 使用可能なすべての条件付きデバッグ オプションを表示します。

## コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンド モード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高プライオリティが割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカルサポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。さらに、**debug** コマンドは、ネットワークトラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時間帯を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

## 例

次に、**show debug** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show debug condition all
```

デバッグを無効にするには、**no debug all** コマンドを使用します。

## show env

スイッチ（スタンドアロンスイッチ、スタックマスター、またはスタックメンバ）のファン、温度、および電源情報を表示するには、EXEC モードで **show env** コマンドを使用します。

```
show env { all | fan | power [all | switch [switch-number]] | stack [stack-number] |
temperature [status] }
```

構文の説明	パラメータ	説明
	<b>all</b>	ファン、温度、および電源環境のステータスを表示します。
	<b>fan</b>	スイッチのファンの状態を表示します。
	<b>power</b>	電源装置のステータスを表示します。
	<b>all</b>	（任意）すべての電源装置のステータスを表示します。
	<b>switch</b> <i>switch-number</i>	（任意）特定のスイッチの電源装置のステータスを表示します。
	<b>stack</b> <i>switch-number</i>	（任意）スタックの各スイッチまたは指定されたスイッチのすべての環境ステータスを表示します。指定できる範囲は、スタック内のスイッチメンバ番号に従って 1～9 です。
	<b>temperature</b>	スイッチの温度ステータスを表示します。
	<b>status</b>	（任意）温度ステータスとしきい値を表示します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 任意のメンバスイッチからスタック内のスイッチに関する情報を表示するには、**show env stack** [*switch-number*] コマンドを使用します。

スイッチの温度ステータスとしきい値レベルを表示するには、**show env temperature status** コマンドを使用します。

## 例

次の例では、マスタースイッチからスタックメンバ1に関する情報を表示する方法を示します。

```
Device> show env stack 1
Device 1:
Device Fan 1 is OK
Device Fan 2 is OK
Device Fan 3 is OK
FAN-PS1 is OK
FAN-PS2 is NOT PRESENT
Device 1: SYSTEM TEMPERATURE is OK
Temperature Value: 32 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 41 Degree Celsius
Red Threshold : 56 Degree Celsius

Device>
```

次に、温度値、状態、およびしきい値を表示する例を示します。

```
Device> show env temperature status
Temperature Value: 32 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 41 Degree Celsius
Red Threshold : 56 Degree Celsius

Device>
```

表 3: *show env temperature status* コマンド出力のステート

状態	説明
グリーン	スイッチの温度が正常な動作範囲にあります。
黄色	温度が警告範囲にあります。スイッチの外の周辺温度を確認する必要があります。
赤	温度がクリティカル範囲にあります。温度がこの範囲にある場合、スイッチが正常に実行されない可能性があります。

## show env xps

Cisco eXpandable Power System (XPS) 2200 のバジェット配分、設定、電力、およびシステム電源情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show env xps** コマンドを使用します。

```
show env xps { budgeting | configuration | port [ all | number ] | power | system
| thermal | upgrade | version }
```

構文の説明		
	<b>budgeting</b>	XPS 電力バジェットの配分（電源スタックに含まれるすべてのスイッチに対する電力の割り当て量とバジェット量）を表示します。
	<b>configuration</b>	power xps 特権 EXEC コマンドを実行した結果の設定を表示します。XPS 設定は XPS に保存されます。show env xps configuration コマンドを入力すると、デフォルト以外の設定が取得されます。
	<b>port</b> [all   number ]	すべてのポートまたは指定の XPS ポートの設定とステータスを表示します。ポート番号は、1～9 です。
	<b>power</b>	XPS 電源装置のステータスを表示します。
	<b>system</b>	XPS システム ステータスを表示します。
	<b>thermal</b>	XPS 温度ステータスを表示します。
	<b>upgrade</b>	XPS アップグレード ステータスを表示します。
	<b>version</b>	XPS バージョンの詳細を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴 リリース 変更内容  
12.2(55)SE1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン XPS 2200 の情報を表示するには、**show env xps** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例 次に、show env xps budgeting コマンドの出力例を示します。

```
Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
```

```

Data          Current   Power   Power Port  Switch #  PS A  PS B  Role-State
Committed
Budget
-----  -----  -----  -----  -----  -    -    715  SP-PS
      223
      1543
2      -      -      -      SP-PS      223      223
3      -      -      -      -          -          -
4      -      -      -      -          -          -
5      -      -      -      -          -          -
6      -      -      -      -          -          -
7      -      -      -      -          -          -
8      -      -      -      -          -          -
9      1      1100  -      RPS-NB     223      070
XPS   -      -      1100  -          -          -

```

次に、show env xps configuration コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps configuration
=====
XPS 0101.0100.0000 :
=====
power xps port 4 priority 5
power xps port 5 mode disable
power xps port 5 priority 6
power xps port 6 priority 7
power xps port 7 priority 8
power xps port 8 priority 9
power xps port 9 priority 4

```

次に、show env xps port all コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
XPS 010

-----
Port name      : -
Connected      : Yes
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 1
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP
Run mode       : SP-PS : Stack Power Power-Sharing Mode
Cable faults   : 0x0 XPS 0101.0100.0000 Port 2
-----
Port name      : -
Connected      : Yes
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 2
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP
Run mode       : SP-PS : Stack Power Power-Sharing Mode
Cable faults   : 0x0 XPS 0101.0100.0000 Port 3
-----
Port name      : -
Connected      : No
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 3
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP Run mode      : -
Cable faults   :
<output truncated>

```

次に、show env xps power コマンドの出力例を示します。

```

=====
XPS 0101.0100.0000 :
=====
Port-Supply SW PID                               Serial#    Status    Mode Watts
-----
XPS-A                Not present
XPS-B                NG3K-PWR-1100WAC  LIT13320NTV OK          SP   1100
1-A                  - -                -          -
1-B                  - -                -          -          SP   715
2-A                  - -                -          -
2-B                  - -                -          -
9-A                  100WAC            LIT141307RK OK          RPS  1100
9-B                  esent

```

次に、show env xps system コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
XPS                Cfg Cfg      RPS Switch Current  Data Port  XPS Port Name
Mode Role      Pri Conn  Role-State Switch #
-----
1      -                On  Auto-SP  1  Yes  SP-PS  -
2      -                On  Auto-SP  2  Yes  SP-PS  -
3      -                On  Auto-SP  3  No   -      -
4      none              On  Auto-SP  5  No   -      -
5      -                Off Auto-SP  6  No   -      -
6      -                On  Auto-SP  7  No   -      -
7      -                On  Auto-SP  8  No   -      -
8      -                On  Auto-SP  9  No   -      -
9      test              On  Auto-SP  4  Yes  RPS-NB

```

次に、show env xps thermal コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
Fan  Status
----  -----
1    OK
2    OK
3    NOT PRESENT PS-1  NOT PRESENT PS-2  OK Temperature is OK

```

次に、アップグレードが実行されていない場合の show env xps upgrade コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps upgrade
No XPS is connected and upgrading.

```

次に、アップグレードが進行中の場合の show env xps upgrade コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer

SW Status Prog
--  -----  ----

```

```

1 Waiting 0%
Switch#
*Mar 22 03:12:46.723: %PLATFORM_XPS-6-UPGRADE_START: XPS 0022.bdd7.9b14 upgrade has
started through the Service Port.
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Receiving 1%
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Receiving 5%
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Reloading 100%
Switch#
*Mar 22 03:16:01.733: %PLATFORM_XPS-6-UPGRADE_DONE: XPS 0022.bdd7.9b14 upgrade has
completed and the XPS is reloading.

```

次に、show env xps version コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps version
=====
XPS 0022.bdd7.9b14:
=====
Serial Number: FDO13490KUT
Hardware Version: 8
Bootloader Version: 7
Software Version: 18

```

表 4: 関連コマンド

コマンド	説明
power xps (グローバル コンフィギュレーション コマンド)	XPS と XPS ポートの名前を設定します。
power xps (特権 EXEC コマンド)	XPS ポートとシステムを設定します。

# show flow monitor

Flexible NetFlow フロー モニタのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **showflowmonitor** コマンドを使用します。

```
show flow monitor [{broker [{detail|picture}]][name] monitor-name [{cache [format
{csv|record|table}]]|provisioning|statistics}]
```

## 構文の説明

<b>broker</b>	(任意) フロー モニタのブローカの状態に関する情報を表示します。
<b>detail</b>	(任意) フロー モニタのブローカに関する詳細情報を表示します。
<b>picture</b>	(任意) ブローカ状態の画像を表示します。
<b>name</b>	(任意) フロー モニタの名前を指定します。
<i>monitor-name</i>	(任意) 事前に設定されたフロー モニタの名前。
<b>cache</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表示します。
<b>format</b>	(任意) ディスプレイ出力のフォーマット オプションのいずれかを使用することを指定します。
<b>csv</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容をカンマ区切り値 (CSV) 形式で表示します。
<b>record</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容をレコード形式で表示します。
<b>table</b>	(任意) フロー モニタのキャッシュの内容を表形式で表示します。
<b>provisioning</b>	(任意) フロー モニタのプロビジョニング情報を表示します。
<b>statistics</b>	(任意) フロー モニタの統計情報を表示します。

## コマンドモード

特権 EXEC

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**cache** キーワードでは、デフォルトでレコード形式が使用されます。

**showflowmonitor *monitor-name* cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる大文字のフィールド名は、フローの識別に Flexible NetFlow が使用するキー フィールドです。 **showflowmonitor *monitor-name* cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる小文字のフィールド名は、Flexible NetFlow がキャッシュの追加データとして値を収集する非キー フィールドです。



## 例

次の例では、フロー モニタのステータスを表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1

Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:      Used for basic traffic analysis
  Flow Record:     flow-record-1
  Flow Exporter:   flow-exporter-1
                  flow-exporter-2

  Cache:
    Type:          normal
    Status:       allocated
    Size:         4096 entries / 311316 bytes
    Inactive Timeout: 15 secs
    Active Timeout: 1800 secs
    Update Timeout: 1800 secs
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 5: `show flow monitor monitor-name` フィールドの説明

フィールド	説明
Flow Monitor	設定したフロー モニタの名前。
Description	モニタに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Flow Record	フロー モニタに割り当てられたフロー レコード。
Flow Exporter	フロー モニタに割り当てられたエクスポータ。
Cache	フロー モニタのキャッシュに関する情報。
Type	フロー モニタのキャッシュ タイプ。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>immediate</b> : フローは即座に期限切れになります。</li> <li>• <b>normal</b> : フローは通常どおり期限切れになります。</li> <li>• <b>Permanent</b> : フローは期限切れになりません。</li> </ul>
Status	フロー モニタのキャッシュのステータス。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>allocated</b> : キャッシュが割り当てられています。</li> <li>• <b>being deleted</b> : キャッシュが削除されています。</li> <li>• <b>not allocated</b> : キャッシュが割り当てられていません。</li> </ul>
Size	現在のキャッシュ サイズ。

フィールド	説明
Inactive Timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Active Timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Update Timeout	更新タイムアウトの現在の値 (秒単位)。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
- Active timeout      ( 300 secs)         2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:        0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:    6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                      2001:DB8::1
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                 2001:DB8:1::1
TRNS SOURCE PORT:                         1111
TRNS DESTINATION PORT:                    2222
IP VERSION:                               6
IP PROTOCOL:                              6
IP TOS:                                   0x05
IP TTL:                                   11
tcp flags:                                0x20
counter bytes long:                       132059538
counter packets long:                     1158417
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 6 : show flow monitor monitor-name cache フィールドの説明

フィールド	説明
Cache type	フローモニタのキャッシュタイプ。この値は常に normal となります。これが唯一サポートされているキャッシュタイプです。
Cache Size	キャッシュ内のエントリ数。
Current entries	キャッシュ内の使用中のエントリ数。
Flows added	キャッシュの作成後にキャッシュに追加されたフロー
Flows aged	キャッシュの作成後に期限切れになったフロー
Active timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Inactive timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。

フィールド	説明
DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 送信元アドレス。
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT	入力パケットの MAC 宛先アドレス。
IPV6 SOURCE ADDRESS	IPv6 送信元アドレスです。
IPV6 DESTINATION ADDRESS	IPv6 宛先アドレス。
TRNS SOURCE PORT	トランスポート プロトコルの送信元ポート。
TRNS DESTINATION PORT	トランスポート プロトコルの宛先ポート。
IP VERSION	IP バージョン。
IP PROTOCOL	プロトコル番号。
IP TOS	IP タイプ オブ サービス (ToS) の値。
IP TTL	IP 存続可能時間 (TTL) の値。
tcp flags	TCP フラグの値。
counter bytes	カウントされたバイト数。
counter packets	カウントされたパケット数。

次の例では、FLOW-MONITOR-1 という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表形式で表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 cache format table
Cache type:                Normal (Platform cache)
Cache size:                 Unknown
Current entries:            1

Flows added:                3
Flows aged:                 2
  - Active timeout         ( 300 secs) 2

DATALINK MAC SRC ADDR INPUT  DATALINK MAC DST ADDR INPUT  IPV6 SRC ADDR  IPV6 DST ADDR
TRNS SRC PORT  TRNS DST PORT  IP VERSION  IP PROT  IP TOS  IP TTL  tcp flags  bytes
long  pkts long
=====
=====
0000.0000.1000                6400.F125.59E6                2001:DB8::1    2001:DB8:1::1
      1111                2222                6                6 0x05                11 0x20                132059538
1158417
```

次の例では、FLOW-MONITOR-IPv6 という名前のフロー モニタ (キャッシュに IPv6 データを格納) のステータス、統計情報、およびデータをレコード形式で表示します。

```
Device# show flow monitor name FLOW-MONITOR-IPv6 cache format record
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      ( 300 secs)      2

DATALINK MAC SOURCE ADDRESS INPUT:        0000.0000.1000
DATALINK MAC DESTINATION ADDRESS INPUT:   6400.F125.59E6
IPV6 SOURCE ADDRESS:                     2001::2
IPV6 DESTINATION ADDRESS:                2002::2
TRNS SOURCE PORT:                        1111
TRNS DESTINATION PORT:                   2222
IP VERSION:                              6
IP PROTOCOL:                             6
IP TOS:                                   0x05
IP TTL:                                   11
tcp flags:                                0x20
counter bytes long:                       132059538
counter packets long:                     1158417
```

次の例では、フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

```
Device# show flow monitor FLOW-MONITOR-1 statistics
Cache type:                               Normal (Platform cache)
Cache size:                               Unknown
Current entries:                          1

Flows added:                              3
Flows aged:                               2
  - Active timeout      ( 300 secs)      2
```

## show install

インストールパッケージに関する情報を表示するには、**show install** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。

**show install** {**active** | **committed** | **inactive** | **log** | **package** {**bootflash:** | **flash:** | **webui:**} | **rollback** | **summary** | **uncommitted**}

構文の説明		
	<b>active</b>	アクティブなパッケージに関する情報を表示します。
	<b>committed</b>	永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。
	<b>inactive</b>	非アクティブなパッケージを表示します。
	<b>log</b>	ログインストールバッファに格納されているエントリを表示します。
	<b>package</b>	説明、再起動情報、パッケージ内のコンポーネントなど、パッケージに関するメタデータ情報を表示します。
	{ <b>bootflash:</b>   <b>flash:</b>   <b>harddisk:</b>   <b>webui:</b> }	インストールパッケージのロケーションを指定します。
	<b>rollback</b>	保存されているインストールに関連付けられたソフトウェアセットを表示します。
	<b>summary</b>	アクティブ、非アクティブ、コミット済み、廃止されたパッケージのリストに関する情報を表示します。
	<b>uncommitted</b>	非永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インストールパッケージのステータスを表示するには、**show** コマンドを使用します。

## 例

次に、**show install package** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install package bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
CSCxxx.SSA.dmp.bin
Name: cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SS
Version: 16.6.1.0.199.1484082952..Everest
Platform: Catalyst3k
Package Type: dmp
Defect ID: CSCxxx
Package State: Added
Supersedes List: {}
Smu ID: 1
```

次に、**show install summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install summary

Active Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Inactive Packages:
  No packages
Committed Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Uncommitted Packages:
  No packages
Device#
```

下の表に、ディスプレイ内に表示される重要なフィールドのリストを示します。

表 7: **show install summary** フィールドの説明

フィールド	説明
Active Packages	アクティブなインストールパッケージの名前。
Inactive Packages	非アクティブなパッケージのリスト。
Committed Packages	変更がリロード以降も存続するように、ハードディスクに変更を保存またはコミットしたインストールパッケージ。
Uncommitted Packages	非永続的なインストールパッケージのアクティベーション。

次に、**show install log** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install log

[0|install_op_boot]: START Fri Feb 24 19:20:19 Universal 2017
[0|install_op_boot]: END SUCCESS Fri Feb 24 19:20:23 Universal 2017
[3|install_add]: START Sun Feb 26 05:55:31 UTC 2017
[3|install_add(FATAL)]: File path (scp) is not yet supported for this command
[4|install_add]: START Sun Feb 26 05:57:04 UTC 2017
[4|install_add]: END SUCCESS
/bootflash/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCvb12345.SSA.dmp.bin
Sun Feb 26 05:57:22 UTC 2017
```

```
[5|install_activate]: START Sun Feb 26 05:58:41 UTC 2017
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>install</b>	SMUパッケージをインストールします。

# show license right-to-use

デバイスにインストールされている apcountadder ライセンスの詳細情報を表示するには、EXEC モードで **show license right-to-use** コマンドを使用します。

**show license right-to-use** {default |detail |eula |mismatch |slot |summary |usage}

構文の説明	default	デフォルトのライセンス情報を表示します。
	<b>detail</b>	スタック内のすべてのライセンスの詳細を表示します。
	<b>eula</b>	EULA テキストを表示します。
	<b>mismatch</b>	一致しないライセンス情報を表示します。
	<b>slot</b>	スイッチ番号を指定します。
	<b>summary</b>	スタック全体の統合ライセンス情報を表示します。
	<b>usage</b>	すべてのライセンスの使用状況の詳細を表示します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          ユーザ EXEC  
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、**show license right-to-use usage** コマンドの出力例として、すべての詳細情報を表示します。

```
Device# show license right-to-use usage

Slot#  License Name      Type      usage-duration (y:m:d)  In-Use  EULA
-----
 1      ipservices      permanent  0 :0 :1                 yes     yes
 1      ipbase          permanent  0 :0 :0                 no      no
 1      ipbase          evaluation 0 :0 :0                 no      no
 1      lanbase          permanent  0 :0 :7                 no      yes
 1      apcount          evaluation 0 :0 :0                 no      no
 1      apcount          base       0 :0 :0                 no      no
 1      apcount          adder      0 :0 :0                 no      yes
 1      apcount          adder      0 :0 :0                 no      yes
 1      apcount          adder      0 :0 :0                 no      yes
```



```

1      apcount      adder      0 :0 :0      no      yes
1      apcount      adder      0 :0 :0      no      yes

```

Device#

次に、**show license right-to-use detail** コマンドの出力例として、ライセンスの詳細情報を表示します。

Device# **show license right-to-use detail**

```

Index 1: License Name: apcount
          Period left: 16
          License Type: evaluation
          License State: Not Activated
          License Count: 1000
          License Location: Slot 1
Index 2: License Name: apcount
          Period left: Lifetime
          License Type: adder
          License State: Active, In use
          License Count: 125
          License Location: Slot 1

```

次に、評価ライセンスがアクティブな場合の **show license right-to-use summary** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show license right-to-use summary
-----
License Name      Type      Count      Period left
-----
apcount           evaluation 1000       50
-----

```

```

Evaluation AP-Count: Enabled
Total AP Count Licenses: 1000
AP Count Licenses In-use: 100
AP Count Licenses Remaining: 900

```

次に、**adder** ライセンスがアクティブな場合の **show license right-to-use summary** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show license right-to-use summary
-----
License Name      Type      Count      Period left
-----
apcount           adder     125        Lifetime
-----

```

```

Evaluation AP-Count: Disabled
Total AP Count Licenses: 125
AP Count Licenses In-use: 100
AP Count Licenses Remaining: 25

```

# show location

エンドポイントのロケーション情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show location** コマンドを使用します。

## show location

```
[{admin-tag|civic-location{identifier identifier-string|interface type
number|static}|custom-location{identifier identifier-string|interface type
number|static}|elin-location{identifier identifier-string|interface type
number|static}|geo-location{identifier identifier-string|interface type number|static}|host}]
```

### 構文の説明

<b>admin-tag</b>	管理タグまたはサイト情報を表示します。
<b>civic-location</b>	都市ロケーション情報を指定します。
<b>identifier</b> <i>identifier-string</i>	シビックロケーション、カスタムロケーション、または地理空間的なロケーションの情報識別子。
<b>interface</b> <i>type</i> <i>number</i>	インターフェイスのタイプと番号  デバイスに対する番号付け構文については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。
<b>static</b>	設定されたシビック、カスタム、または地理空間的ロケーション情報を表示します。
<b>custom-location</b>	カスタムロケーション情報を指定します。
<b>elin-location</b>	緊急ロケーション情報 (ELIN) を指定します。
<b>geo-location</b>	地理空間的なロケーション情報を指定します。
<b>host</b>	シビック、カスタム、または地理空間的なホストロケーション情報を指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次の **show location civic-location** コマンドの出力例は、指定された識別子 (*identifier* 1) のシビックロケーション情報を表示します。

```
Device# show location civic-location identifier 1
Civic location information
-----
Identifier           : 1
County               : Santa Clara
Street number       : 3550
Building             : 19
Room                 : C6
Primary road name   : Example
City                 : San Jose
State                : CA
Country              : US
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>location</b>	エンドポイントにロケーション情報を設定します。

# show mac address-table move update

デバイス上のMACアドレステーブル移動更新情報を表示するには、EXECモードで **show mac address-table move update** コマンドを使用します。

## show mac address-table move update

### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 例

次の例では、**show mac address-table move update** コマンドの出力を示します。

```
Device# show mac address-table move update

Switch-ID : 010b.4630.1780
Dst mac-address : 0180.c200.0010
Vlans/Macs supported : 1023/8320
Default/Current settings: Rcv Off/On, Xmt Off/On
Max packets per min : Rcv 40, Xmt 60
Rcv packet count : 10
Rcv conforming packet count : 5
Rcv invalid packet count : 0
Rcv packet count this min : 0
Rcv threshold exceed count : 0
Rcv last sequence# this min : 0
Rcv last interface : Po2
Rcv last src-mac-address : 0003.fd6a.8701
Rcv last switch-ID : 0303.fd63.7600
Xmt packet count : 0
Xmt packet count this min : 0
Xmt threshold exceed count : 0
Xmt pak buf unavail cnt : 0
Xmt last interface : None
```

## show platform integrity

起動段階のチェックサムレコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform integrity** コマンドを使用します。

**show platform integrity** [**sign** [**nonce** <nonce>]]

### 構文の説明

**sign** (任意) 署名を表示します。

**nonce** (任意) ナンス値を入力します。

### コマンドモード

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

### 例

次に、起動段階のチェックサムレコードを表示する例を示します。

```
Device# show platform integrity sign
```

```
PCR0: EE47F8644C2887D9BD4DE3E468DD27EB93F4A606006A0B7006E2928C50C7C9AB
PCR8: E7B61EC32AFA43DA1FF4D77F108CA266848B32924834F5E41A9F6893A9CB7A38
Signature version: 1
Signature:
816C5A29741BBAC1961C109FFC36DA5459A44DBF211025F539AFB4868EF91834C05789
5DAFBC7474F301916B7D0D08ABE5E05E66598426A73E921024C21504383228B6787B74
8526A305B17DAD3CF8705BACFD51A2D55A333415CABC73DAFDEEFD8777AA77F482EC4B
731A09826A41FB3EFFC46DC02FBA666534DBEC7DCC0C029298DB8462A70DBA26833C2A
1472D1F08D721BA941CB94A418E43803699174572A5759445B3564D8EAE57D64AE304
EE1D2A9C53E93E05B24A92387E261199CED8D8A0CE7134596FF8D2D6E6DA773757C70C
D3BA91C43A591268C248DF32658999276FB972153ABE823F0ACFE9F3B6F0AD1A00E257
4A4CC41C954015A59FB8FE
Platform: WS-C3650-12X48UZ
```

# show platform sudi certificate

特定の SUDI のチェックサム レコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform sudi certificate** コマンドを使用します。

**show platform sudi certificate** [**sign** [**nonce** <nonce>]]

構文の説明	<b>sign</b>	(任意) 署名を表示します。
	<b>nonce</b>	(任意) ナンス値を入力します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス	
	このコマンドが導入されました。	

## 例

次に、特定の SUDI のチェックサム レコードを表示する例を示します。

```
Device# show platform sudi certificate

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDQzCCAiugAwIBAgIQX/h7KctU3I1CoxW1aMmt/zANBqkqhkiG9w0BAQUFADA1
MRyWfAYDVQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENB
IDIwNDgwHhcNMDQwNTE0MjAxNzEyWhcNMjkwNTE0MjAyNTQyWjA1MRyWfAYDVQQK
Ew1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgwggEg
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDQAwggEIAoIBAQCwmrmp68Kd6ficba0ZmKUeIhH
xmJVhEAYv8CrLqUccda8bnuoqrpu0hWIESEWdovyD0My5jOAmAHBKeN8hF570YQXJ
FcjPftoIYYmUQ6iEqDGyEJu5Tm8sUxJsZr2tKyS7McQr/4NEb7Y9JhcJ6r8qqB9q
VvYgDxFU14F1pyXOWWqCZe+36ufijXWLBvLdt6ZeYpzPEApk0E5tzivMW/VgpSdH
jWn0f84bcN5wGyDws2mAag8EtKpP6BrXruOIIt6ke01a06g58QBdKhTCytKmg9l
Eg6CTY5j/e/rmxrbU6YTYK/CfdfHbBcl1HP7R2RQgYCUTOG/rksc35LtLgXfAgED
o1EwTzALBgNVHQ8EBAMCAYYwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUJ/PI
FR5umgIJFq0roIlgX9p7L6owEAYJKwYBBAGCNxUBBAMCAQAwDQYJKoZIhvcNAQEF
BQADggEBAJ2dhISjQa18dwy3U8pORFbi71R803UXHOjgkxhLtv5MOhmBvrBW7hmW
Yqpao2TB9k5UM8Z3/sUcuuVdJcr18JOagxEu5sv4dEX+5wW4q+ffY0vhN4TauYux
cB7w4ovXsNgOnbFp1iqRe6lJT37mjpXYgyc81WhJdtSd9i7rp77rMKSsHOT8lasz
Bvt9YAreTIpjsJyp8qS5UwGH0GikJ3+r/+n6yUA4iGe00caEb1fJU9u6ju7AQ7L4
CYNu/2bPPu8Xs1gYJQk0XuPL1hs27PKSb3TkL4Eq1ZKR4OCXPDJoBYVL0fdX41Id
kxpUnwVvwEpxYB5DC2Ae/qPOgRnhCzU=
-----END CERTIFICATE-----

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEPCCAySgAwIBAgIKYQ1ufQAAAAADDANBqkqhkiG9w0BAQUFADA1MRyWfAYD
VQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgw
HhcNMTUwNjMwMjE0MjU3WhcNMjkwNTE0MjAyNTQyWjA1MRyWfAYDVQQKEw1DaXNj
bzEVMBMGA1UEAxMMQUNUMiBTVURJIENBMTIBIjANBqkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8A
MIIBCgKCAQEAm513THixA9tN/hS5qR/6UZRpdd+9aE2JbFkNjht6gfHKd477AKS
5XAtUs5oxDYVt/zEbs1Zq3+LR6qrqKKQVu6JYvH05UYLBqCj38s76NLk53905Wzp
9pRcmRCPuX+a6tHF/qRuOiJ44mdeDYZo3qPCpxzprWJDPclM4iYKHumMQMqmgm+
xghHIooWS80BOcdiynEbeP5rZ7qRuewKmp11TiI3WdBNjZjnpfjg66F+P4SaDkGb
EXdGj13VeF+EyFWLrFjj97fL2+8oauV43Qrvnf3d/GfQXj7ew+z/sX1XtEOjSXJ
URsYMEj53Rdd9tJwHky8neapszS+r+kdVQIDAQABo4IBWjCCAVYwCwYDVR0PBAQD
AgHGMB0GA1UdDgQWBRI2PHxwnDVW7t8cwmTr7i4MAP4fzAfBgNVHSMEGDAWgBQn
```

```
88gVHm6aAgkWrSugiWBf2nsvqjBDBgNVHR8EPDA6MDigNqA0hjJodHRwOi8vd3d3
LmNpc2NvLmNvbS9zZWw1cm10eS9wa2kvY3JsL2NyY2EyMDQ4LmNybDBBQggrBgEF
BQcBAQREMEIwQAYIKwYBBQUHMAKGNgh0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3Vy
aXR5L3BraS9jZlZ0cy9jcmNhMjA0OC5jZlZlWXYAYDVR0gBFUwUzBRBgorBgEAAQkV
AQwAMEMwQYIKwYBBQUHAgEWNWh0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3VyXR5
L3BraS9wb2xpy2l1cy9pbmRleC5odG1sMBIGA1UdEwEB/wQIMAYBAf8CAQAwDQYJ
KoZIHvcNAQEFBQADggEBAGh1qc1r9tx4hzWgDERm371yeuEmqcIffi9b9+GbMSJbi
ZHc/CcC101Ju0a9zTXA9w47H9/t6leduGxb4WeLxcwCiUgvFtCa51Ik1t8nNbcKY
/4dw1ex+7amATUQ04QggIE67wVIPu6bgAE3Ja/nRS3xKYSnj8H5TehimBSv6TECi
i5jUhOWryAK4dVo8hCjkjEku3ufBTJapnv89g9OE+H3VKM4L+/KdkUO+52djFKn
hyl47d7cZR4DY4LIuFM2P1As8YyjoNpK/urSRI14WdI1plR1nH7KND15618yFVP
0IFJZBGrooCRBjOSwFv8cpWCbmWdPaCQT2nwIjTFY8c=
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDhjCCAm6AwIBAgIDctWkMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMCcxZDjAMBGNVBAoTBUNp
c2NvMRUwEwYDVQQDEwxBQ1QyIFNVREkgQ0EwHhcNMTUwODA2MDgwODI5WhcNMjUw
ODA2MDgwODI5WjBZMzswKgYDVQQFEyNQSUQ6V1MtQzM2NTAtMTJYNdhVWjBTtjPjG
RE8xOTMyWDawQzEOMAwGA1UEChMFQ2l2Y28xGDAwBgNVBAsTD0FDVC0yIEExpdGUg
U1VSTEZMBCGAlUEAxMQV1MtQzM2NTAtMTJYNdhVWjCCASiWdQYJKoZIhvcNAQEB
BQADggEPADCCAQoCggEBANZxOGYI0eU14HcSwjL4HO75qTj19C2BHG3ufce9ikkN
xwGXi8gg8vKxub9tRYRaJC5bP1Wmoq7+ZJtQA079xE4X14sonbkq5NaUhh7RB1wD
iRUJvTfCOzVICbnfbzvtB30I75tCarFNmpd0K6AFrIa41U988QGqaCj7R1JrYNaJ
nC73UXXM/hC0HtNR5mhyqer5Y2qjjzo6tHZYqrrx2eS1XOa262ZSQriAxmaH/KLC
K97ywyRbdJlxBRX3hGtKlog8nASB8WpXqB9NVCErZUajwU3L/kg2BsCqw9Y2m7HW
U1cerTxgthuyUkdNI+Jg6iGApM2+s8E9hsHPBPMCdIsCAwEAAANvMG0WdGyDVR0P
AQH/BAQDAgXgMAwGA1UdEwEB/wQCMAAwTQYDVR0RBEEYwRKBCBgkrBgEAAQkVAgOg
NRMzQ2hpcE1EPVZSk5ORmRRR1FvN1ZiVmxJRTlqZENBeU9DQXhPRG93T1RveE1T
QVg5eWc9MA0GCSqGSIb3DQEBCwUAA4IBAQBKicTRZbVCRjVIR5MQcWXUT086v6Ej
HahDHTts3YpQoyAVfioNg2x8J6EXcEau4voyVu+eMUoNL4szPhmmDcULfiCGBCa
/R3EFuoVMIzNT0geziytsCf728KGw1oGuosgVjNGOOahUELu4+F/My7bIjNBh+PD
KjIFmhJpJg0F3q17yClAeXvd13g3W393i35d00Lm5L1WbBfQTyBaOLAbxsHvutrX
u1VZ5sdqSTwTkk09vKMaQjh7a8J/AmJi93jvz69pe5711P1zqZfYfpiJ3cyJ0xf
I4brQ1smdcz1oFD4asF7A+1vor5e4VDBP0ppmeFAJvCQ52JTpj0M0o1D
-----END CERTIFICATE-----
```

## show sdm prefer

特定の機能用のシステムリソースを最大にするために使用できるテンプレートに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show sdm prefer** コマンドを使用します。現在のテンプレートを表示するには、キーワードを指定せずにコマンドを使用します。

### show sdm prefer [advanced]

構文の説明	<b>advanced</b> (任意) 高度なテンプレートに関する情報を表示します。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

**使用上のガイドライン** **sdm prefer** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後にスイッチをリロードしていない場合、**show sdm prefer** 特権 EXEC コマンドでは、新しく設定されたテンプレートでなく現在使用中のテンプレートが表示されます。

各テンプレートで表示される番号は、各機能のリソースにおけるおおよその最大数になります。他に設定された機能の実際の数字にもよるため、実際の数字とは異なる場合があります。たとえば、デバイスに 16 を超えるルーテッド インターフェイス (サブネット VLAN) がある場合、デフォルトのテンプレートでは、可能なユニキャスト MAC アドレスの数は 6000 未満になることがあります。

### 例

次に、**show sdm prefer** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show sdm prefer
Showing SDM Template Info

This is the Advanced template.
Number of VLANs:                4094
Unicast MAC addresses:          32768
Overflow Unicast MAC addresses: 512
IGMP and Multicast groups:      8192
Overflow IGMP and Multicast groups: 512
Directly connected routes:      32768
Indirect routes:                 7680
Security Access Control Entries: 3072
QoS Access Control Entries:      3072
Policy Based Routing ACEs:       1024
Netflow ACEs:                    1024
```



```
Input Microflow policer ACEs:          256
Output Microflow policer ACEs:         256
Flow SPAN ACEs:                        256
Tunnels:                                256
Control Plane Entries:                  512
Input Netflow flows:                    8192
Output Netflow flows:                   16384
SGT/DGT entries:                        4096
SGT/DGT Overflow entries:               512
These numbers are typical for L2 and IPv4 features.
Some features such as IPv6, use up double the entry size;
so only half as many entries can be created.
```

```
Device#
```

# system env temperature threshold yellow

イエローのしきい値を決定する、イエローとレッドの温度しきい値の差を設定するには、グローバル コンフィギュレーション コマンドで **system env temperature threshold yellow** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**system env temperature threshold yellow value**  
**no system env temperature threshold yellow value**

## 構文の説明

*value* イエローとレッドのしきい値の差を指定します（摂氏）。指定できる範囲は 10 ～ 25 です。

## コマンド デフォルト

デフォルト値は次のとおりです。

表 8: 温度しきい値のデフォルト値

Device	イエローとレッドの差	レッド <sup>1</sup>
Catalyst 9300	14 °C	60 °C

<sup>1</sup> レッドの温度しきい値を設定することはできません。

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

グリーンとレッドのしきい値を設定することはできませんが、イエローのしきい値を設定することはできます。イエローとレッドのしきい値の差を指定して、イエローのしきい値を設定するには、**system env temperature threshold yellow value** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 66 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 15 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 15** コマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 60 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 15 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 9** コマンドを使用します。



(注) デバイス内部の温度センサーでシステム内の温度を測定するため、±5 °C の差が生じる可能性があります。

## 例

次の例では、イエローとレッドのしきい値の差を 15 に設定する方法を示します。

```
Device(config)# system env temperature threshold yellow 15  
Device(config)#
```

## test cable-diagnostics tdr

インターフェイス上でタイムドメイン反射率計（TDR）機能を実行するには、特権 EXEC モードで **test cable-diagnostics tdr** コマンドを使用します。

**test cable-diagnostics tdr interface interface-id**

### 構文の説明

*interface-id* TDR を実行するインターフェイス。

### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

### コマンド モード

特権 EXEC

### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

TDR は、銅線のイーサネット 10/100/100 ポートだけでサポートされます。10 ギガビットイーサネット ポートまたは Small Form-Factor Pluggable（SFP）モジュール ポートではサポートされません。

**test cable-diagnostics tdr interface interface-id** コマンドを使用して TDR を実行した後、**show cable-diagnostics tdr interface interface-id** 特権 EXEC コマンドを使用して結果を表示します。

次の例では、インターフェイス上で TDR を実行する方法を示します。

```
Device# test cable-diagnostics tdr interface gigabitethernet1/0/2
TDR test started on interface Gi1/0/2
A TDR test can take a few seconds to run on an interface
Use 'show cable-diagnostics tdr' to read the TDR results
```

インターフェイスのリンク ステータスがアップ状態で速度が 10 Mb/s または 100 Mb/s である場合、**test cable-diagnostics tdr interface interface-id** コマンドを入力すると、次のメッセージが表示されます。

```
Device# test cable-diagnostics tdr interface gigabitethernet1/0/3
TDR test on Gi1/0/9 will affect link state and traffic
TDR test started on interface Gi1/0/3
A TDR test can take a few seconds to run on an interface
Use 'show cable-diagnostics tdr' to read the TDR results.
```

## traceroute mac

指定の送信元 MAC アドレスから指定の宛先 MAC アドレスまでをパケットが通過するレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **traceroute mac** コマンドを使用します。

**traceroute mac** [**interface** *interface-id*] *source-mac-address* [**interface** *interface-id*] *destination-mac-address* [**vlan** *vlan-id*] [**detail**]

構文の説明	<b>interface</b> <i>interface-id</i>	(任意) 送信元または宛先デバイス上のインターフェイスを指定します。
	<i>source-mac-address</i>	送信元デバイスの 16 進形式の MAC アドレス。
	<i>destination-mac-address</i>	宛先デバイスの 16 進形式の MAC アドレス。
	<b>vlan</b> <i>vlan-id</i>	(任意) 送信元デバイスから宛先デバイスまでをパケットが通過するレイヤ 2 のパスをトレースする VLAN を指定します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。
	<b>detail</b>	(任意) 詳細情報を表示するよう指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**      レイヤ 2 の **traceroute** を適切に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークのすべてのデバイスで有効になっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。

デバイスがレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 **traceroute** をサポートしていないデバイスを検知した場合、デバイスはレイヤ 2 **trace** クエリを送信し続け、タイムアウトにします。

パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。

レイヤ 2 **traceroute** はユニキャストトラフィックだけをサポートします。マルチキャストの送信元または宛先 MAC アドレスを指定しても、物理的なパスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

指定された送信元および宛先アドレスが同じ VLAN にある場合、**traceroute mac** コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。

異なる VLAN にある送信元および宛先アドレスを指定した場合、レイヤ 2 パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

送信元または宛先 MAC アドレスが複数の VLAN に属する場合は、送信元および宛先 MAC アドレスの両方が属している VLAN を指定する必要があります。

VLAN を指定しないと、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 tracert 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

## 例

次の例では、送信元および宛先 MAC アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# tracert mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5      ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1      ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2      ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
```

次の例では、**detail** キーワードを使用することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# tracert mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201 detail
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24PD / 2.2.6.6 :
    Gi0/0/2 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
    Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、送信元および宛先デバイスのインターフェイスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# tracert mac interface fastethernet0/1 0000.0201.0601 interface fastethernet0/3
0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5      ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1      ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2      ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1
```

```
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
```

次の例では、デバイスが送信元デバイスに接続されていない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0501 0000.0201.0201 detail
Source not directly connected, tracing source .....
Source 0000.0201.0501 found on con5[WS-C3750E-24TD] (2.2.5.5)
con5 / WS-C3750E-24TD / 2.2.5.5 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、デバイスが送信元 MAC アドレスの宛先ポートを検出できない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0011.1111 0000.0201.0201
Error:Source Mac address not found.
Layer2 trace aborted.
```

次の例では、送信元および宛先デバイスが異なる VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0301.0201
Error:Source and destination macs are on different vlans.
Layer2 trace aborted.
```

次の例では、宛先 MAC アドレスがマルチキャスト アドレスの場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0601 0100.0201.0201
Invalid destination mac address
```

次の例では、送信元および宛先デバイスが複数の VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Error:Mac found on multiple vlans.
Layer2 trace aborted.
```

## tracroute mac ip

指定の送信元 IP アドレスまたはホスト名から、指定の宛先 IP アドレスまたはホスト名を通過するパケットのレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **tracroute mac ip** コマンドを使用します。

**tracroute mac ip** {*source-ip-address source-hostname*} {*destination-ip-address destination-hostname*}  
[**detail**]

構文の説明	<i>source-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された送信元デバイスの IP アドレス。
	<i>source-hostname</i>	送信元デバイスの IP ホスト名。
	<i>destination-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された宛先デバイスの IP アドレス。
	<i>destination-hostname</i>	宛先デバイスの IP ホスト名。
	<b>detail</b>	（任意）詳細情報を表示するよう指定します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード          特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン**      レイヤ 2 の **tracroute** を適切に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークの各デバイスでイネーブルになっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。

デバイスがレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 **tracroute** をサポートしていないデバイスを検知した場合、デバイスはレイヤ 2 **trace** クエリを送信し続け、タイムアウトにします。

パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。

指定された送信元および宛先の IP アドレスが同一のサブネット内にある場合、**tracroute mac ip** コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。

IP アドレスを指定した場合、デバイスは Address Resolution Protocol (ARP) を使用し、IP アドレスとそれに対応する MAC アドレスおよび VLAN ID を対応させます。

- 指定の IP アドレスの ARP のエントリが存在している場合、デバイスは対応する MAC アドレスを使用して、物理パスを識別します。



- ARP のエントリが存在しない場合、デバイスは ARP クエリを送信し、IP アドレスを解決しようと試みます。IP アドレスは同一のサブネットにある必要があります。IP アドレスが解決されない場合は、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 traceroute 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

## 例

次の例では、**detail** キーワードを使用して、送信元と宛先の IP アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# traceroute mac ip 2.2.66.66 2.2.22.22 detail
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24TD / 2.2.6.6 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
    Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、送信元および宛先ホスト名を指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# traceroute mac ip con6 con2
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5   ) :   Gi0/0/3 => Gi0/1
con1          (2.2.1.1   ) :   Gi0/0/1 => Gi0/2
con2          (2.2.2.2   ) :   Gi0/0/2 => Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2
Layer 2 trace completed
```

次の例では、ARP が送信元 IP アドレスと対応する MAC アドレスを関連付けられない場合の、レイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# tracert mac ip 2.2.66.66 2.2.77.77  
Arp failed for destination 2.2.77.77.  
Layer2 trace aborted.
```

# type

一つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **type** コマンドを使用します。

**type** *filesystem:/file-url...*

## 構文の説明

*filesystem:* ファイルシステムのエイリアス。システムボードフラッシュデバイスには **flash:** を使用します。USBメモリスティックには **usbflash0:** を使用します。

*/file-url...* 表示するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

## コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

## コマンドモード

ブートローダ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。  
ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

## 例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
Device: type flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

# unset

1 つ以上の環境変数をリセットするには、ブート ロード モードで **unset** コマンドを使用します。

**unset variable...**

## 構文の説明

<i>variable</i>	<i>variable</i> には、次に示すキーワードのいずれかを使用します。  <b>MANUAL_BOOT</b> : デバイスの起動を自動で行うか手動で行うかどうかを指定します。
	<b>BOOT</b> : 自動起動時に、実行可能ファイルのリストをリセットして、ロードおよび実行します。 <b>BOOT</b> 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。 <b>BOOT</b> 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。
	<b>ENABLE_BREAK</b> : フラッシュ ファイル システムの初期化後に、コンソール上の <b>Break</b> キーを使用して自動ブートプロセスを中断できるかどうかを指定します。
	<b>HELPER</b> : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。
	<b>PS1</b> : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。
	<b>CONFIG_FILE</b> : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名をリセットします。
	<b>BAUD</b> : コンソールで使用される速度 (ビット/秒 (b/s) 単位) をリセットします。コンフィギュレーション ファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。

コマンド デフォルト      デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード      ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** 通常環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL\_BOOT 環境変数は、**no boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

BOOT 環境変数は、**no boot system** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

ENABLE\_BREAK 環境変数は、**no boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

HELPER 環境変数は、**no boot helper** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

CONFIG\_FILE 環境変数は、**no boot config-file** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

### 例

次に、SWITCH\_PRIORITY 環境変数をリセットする例を示します。

```
Device: unset SWITCH_PRIORITY
```

## version

ブートローダのバージョンを表示するには、ブートローダモードで **version** コマンドを使用します。

### version

#### 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

#### コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

#### コマンド モード

ブートローダ

#### コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

#### 例

次に、デバイスのブートローダのバージョンを表示する例を示します。